

JOB AID

**HAZARDOUS
CHEMICAL INFORMATION
(JAPANESE)**

有害化学物質に関する情報

有害化学物質情報プログラムは、雇用者と従業員が職場に~~く~~む危険性を認識し、有害化学物質によって引き起こされる怪我や病気から身を守る方法を知ることが主な目的としています。

危険の種類

- ・物理的危険性（引火性、爆発性、自然性など）：深刻な事故や怪我を引き起こす可能性があります
- ・健康への有害性（毒性、皮膚刺激性、呼吸器疾患など）：健康に短期的または長期的な悪影響を及ぼす可能性があります

雇用者の責任

- ・職場にあるすべての有害化学物質を明確にし、リストを作成します
 - ・製造業者、輸入業者、販売業者から提供されていない場合、各有害化学物質の安全データシートとラベルを入手します
 - ・有害化学物質情報プログラムを提供し、次の分野を扱います：
 - 危険有害性の分類
 - 文書によるプログラム
- 有害化学物質リスト
- 雇用者の責任：
- SDS とラベル
 - トレーニング

- ・職場で従業員が晒される可能性のあるすべての有害化学物質を明確にし、リストにします
- ・あらゆる状態の化学物質（液~~体~~、固~~体~~、気~~体~~、蒸気、煙、噴霧）を考慮します
- ・容器（パイプを含む）内の化学物質を明確にし、溶接ヒュームや埃、排煙など作業で発生する化学物質も考慮します

文書によるプログラム

文書によるプログラムには次の内容がすべて記載されていなければなりません：

- ・現場にある有害化学物質

- 現場で行われるプログラムのさまざまな側面に関する責任者
- 従業員が資料を利用できる場所
- 複数の雇用者がいる職場で働く従業員との情報共有方法

このジョブエイドは、UL コースウェアに関連する補足情報を提供するものです。© COPYRIGHT Underwriters Laboratories, Inc.無断複写、転載を禁じます。

- 現場での次の要件への準拠状況
 - 警告ラベルとその他の警告形式
 - SDS
 - 従業員の情報とトレーニング
- 非日常業務の危険性を従業員に伝える方法

安全データシート

- 16 のセクションで構成されるフォーマット
- 化学物質の製造業者、輸入業者、または販売業者が準備し、以下の内容を記載します：
 - 物理的危険性（引火性、自然性、爆発性など）
 - 健康への有害性（皮膚刺激性、呼吸器疾患といった暴露による病気や怪我の兆候 や症状など）
 - 曝露経路
 - 吸収（皮膚接触） ■ 吸引（呼吸） ■ 摂取（飲み込み） ■ 注入（針や皮膚の傷口から 血管に直接侵入）
- 安全な取り扱いと使用に関する注意事項
- 応急処置手順
- 危険管理方法
- 自国の公用語（および職場で使われているその他の言語）で記載し、化学的特定名と一般名に関する情報も記載します
- 次の事柄に関する情報を提供します
 - 物理的特性と化学的特性
 - 健康への影響と応急処置

- 発ガン性（発がん作用）

- 安全データシートを用意する責任のある会社の連絡先（会社名、住所、電話番号）・作業場で従業員が利用しやすいように提供します。

職場で SDS が保管してある正確な場所を把握することは従業員の責任です。

製造業者は、製造する化学物質の危険性を評価しなければなりません。有害化学物質の SDS が提供されなかった場合、雇用者は供給業者、製造業者または輸入業者に連絡して SDS を入手し、連絡先の記録を保管しておかなければなりません。

このジョブアイドは、UL コースウェアに関連する補足情報を提供するものです。© COPYRIGHT Underwriters Laboratories, Inc.無断複写、転載を禁じます。

危険警告ラベル

製造業者、輸入業者、および販売業者は、化学物質が輸送されるときに各化学物質にラベルを貼らなければなりません。ラベルは認識しやすく、読みやすく記載され、人目に付く場所に表示しなければなりません。また、ラベルには次の内容がすべて記載されていなければなりません：

- 製品名または製品特定名
- ピクトグラム（絵文字）
- 注意喚起語（「危険」は「警告」よりも深刻な危険）
- 物理的危険性、健康への有害性、および環境への有害性が記載された危険有害性の説明
- 補足情報
- 応急処置の説明
- 予防策
- 供給業者の名前、住所、電話番号



注意喚起語、危険有害性情報およびピクトグラムは、ラベルと一緒に記載されていなければなりません。

トレーニング

雇用者は、次の場合に職場の有害化学物質情報プログラムトレーニングを従業員に提供しなければなりません：

- ・ 有害化学物質に晒される可能性があるとき、または有害化学物質を扱う前・危険有害性が変更されたとき
- ・ 新しい危険有害性の使用が作業場で取り入れられたとき

トレーニングには次の内容が含まれていなければなりません：

- ラベル、SDS、有害危険性情報の入手方法と使用方法など、有害化学物質情報プログラムの説明
- 従業員の職場にある化学物質の物理的危険性と健康への有害性
- 従業員が有害化学物質の危険から身を守る方法
- 有害化学物質の存在や放出に気付くための方法

このジョブエイドは、UL コースウェアに関連する補足情報を提供するものです。© COPYRIGHT Underwriters Laboratories, Inc.無断複写、転載を禁じます。

OSHA Outreach Courses